

2025 年度 Intercultural Collaborative Learning (ICL)

単位互換履修生 募集要項

1. ICLプロジェクトについて

東北大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学の 5 大学（ICL コンソーシアム）は、文部科学省大学の国際化促進フォーラム事業の支援を受け『国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開（ICL プロジェクト）』を 2021 年度に開始しました。このプロジェクトは留学生と国内学生の協働を授業・活動に組み入れた国際共修（ICL）の授業実践を通じ国内外の機関と共有し、高度化、国際的通用性の向上を図りながら国内外に横展開することを目的としています。

本プロジェクトでは、ICL コンソーシアムが開講する 6 学際領域に関連する国際共修授業科目（ICL 科目）を単位互換可能な形で提供します。¹これら大学に在籍する学生は、在籍大学の定める範囲内で他大学の ICL 科目を履修することが可能です。単位互換履修生として履修を希望する方は、本募集要項に従い出願してください。

2. 学修到達目標

本プロジェクトによる単位互換可能な授業交流を通じて、学生の国際的な学習体験の多様化と国・地域・大学を超えた学生ネットワークの形成・拡大を図り、国際性を重視し世界共通の課題の解決に挑む新時代のグローバル人材を育成します。授業では科目コンテンツの学修と文化的・言語的に多様な背景をもつ学生との意味ある交流（meaningful interaction）等を有機的に融合し、学びの質を高め、各学際領域に設定した学修到達目標の達成を目指します。

学際領域	学修到達目標
SDGs	持続可能な開発目標に対する理解を促進し、多様な視点で世界共通の課題に対する解決策を地球市民として提案する力を伸ばす
震災・復興	阪神・淡路大震災、東日本大震災の被害や減災・防災について学び、復興のプロセス・成果を世界に発信する力を身につける
異文化理解	言語・文化背景の異なる人々を理解・受容し、自文化をクリティカルに再考する中で、新しい価値観や創造力を身につける
産学連携・リーダーシップ	グローバルな環境で価値観の異なる人とでも協働し、課題発見・解決に能動的に関わりとうとするコミュニケーション力・行動力・リーダーシップを習得する
日本文化・社会	日本の文化・歴史・慣習・社会事情に深い造詣をもち、日本の魅力や課題を多角的な視点で分析・議論する力を身につける
地域社会との協働	地域社会の魅力や課題、また地域に暮らす人々を理解し、グローバルな視点で地域の発展につながる提案力・行動力を身につける

¹ 科目により単位互換が認められない場合があります。単位互換の可否については所属大学に確認してください。また、各加盟校の成績通知日程が異なるため、単位互換に間に合わない場合があります。

3. ICL 科目（単位互換科目）

2025 年度は6つの学際分野から以下の ICL 科目（日本語又は英語）を開講予定です。開講科目については、p. 5 の「2025 年度 ICL 開講科目一覧」をご覧ください。また、各科目の詳細及びシラバスは [ICL プログラムウェブサイト](#) をご覧ください。科目によっては定員や対象学年（セメスター）が定められていることがあります。

4. 募集対象者

東北大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学に履修期間を通じ在学する学部学生となります。（**大学院生は対象外です。**）その他、学部相当の交換留学生（特別聴講学生）も各大学の取り扱いにより履修可能な場合がありますので、希望する方は所属する大学の窓口にお問い合わせください。
※休学者は対象外となります。

5. 受講定員

科目により受講定員が定められており、履修希望者数が定員を上回る場合は開講大学での審査の結果、希望する科目の履修ができない場合がありますのでご注意ください。

6. ICL 科目履修までの流れ（申請方法）

履修を希望する方は、以下の手順で行ってください。

1. 下記 8「申請にあたっての確認事項」を確認する。
2. 履修を希望する授業科目を上記「3.ICL 科目(単位互換科目)」等を参照し決定する。
3. 所属学部の教務担当係に様式「ICL 単位互換履修申請届出書」※を提出する。
※グローバルラーニングセンター[募集サイト](#)からダウンロード可能
4. 上記 3 の「届出書」を提出する際に、所属学部の教務担当係に ICL 科目を履修することについて許可を得る。
5. 所属学部の教務担当係より許可を得た後、[ICL 科目履修申請フォーム](#)から必要事項を入力する。
6. 授業科目履修の可否について下記「15.問合せ先」に記載の東北大学担当事務局から受理する。
7. 開講大学の案内に従い、ICL 科目の履修を開始する。

7. 申請期限

各学期の ICL 科目の履修申請期限は、以下のとおりです。

- 前期（一学期）：2025 年 3 月 5 日（水）正午

8. 申請にあたっての確認事項

事前に以下の点を確認のうえ履修申請をしてください。

- 在籍大学で事前に確認・手続きを行う必要がある場合、その指示に従ってください。
- 履修を希望する科目が指定する履修要件（例：英語力）を満たしているかをシラバス等で確認してください。
- 開講大学により授業時間が異なります。時間割の重複は認められませんので、履修を希望する ICL 科目と前後する自大学の科目の授業時間に重複がないか必ず確認してください。履修単位数の上限を超えることのないよう、在籍大学のルールを確認してください。

9. 在籍身分

履修を許可された学生は開講大学の特別聴講学生の身分を有します。

10. 成績評価と単位認定

ICL 科目の成績評価は開講大学の定めによります。修得した成績の単位認定方法は、在籍大学において確認してください。

11. 授業料等

ICL 科目を履修するための授業料・入学料・検定料等は徴収しません。その他、実習費・材料費等の有無についてはシラバス等で確認してください。

12. 受講方法

ICL 科目は、原則、オンライン授業となるため、受講の際に、各自パソコンやインターネット環境等が必要となります。

13. 授業開始日及び履修辞退手続き

各 ICL 科目開講大学の前期の学期（一学期）は下表のとおり開始します。ICL 科目の履修許可を得た後、原則として ICL 科目の履修辞退はできませんので、申請前に履修計画をしっかりと立ててください。やむを得ない事情により履修を辞退しなければならない場合は、下表に定める履修辞退届出期限までに下記 15 に記載の所属大学問合せ先へ届け出てください。科目を開講する大学によって、履修辞退届出期限が異なるので留意してください。

科目	前期の学期（一学期）開始日	履修辞退届出期限 （所属大学の担当窓口へ提出）
東北大学開講科目	2025 年 4 月 8 日	2025 年 4 月 16 日
東京外国語大学開講科目	2025 年 4 月 8 日	2025 年 4 月 21 日
信州大学開講科目	2025 年 4 月 10 日	2025 年 4 月 15 日
神戸大学開講科目	2025 年 4 月 8 日	2025 年 4 月 14 日

【例：東京外国語大学生が信州大学が開講する科目の履修辞退を行う場合】

東京外国語大学生は、下記 15 に記載の東京外国語大学問合せ先（学務部教務課教務係）に 2025 年 4 月 15 日までに届出る必要があります。4 月 16 日以降は、信州大学が開講する科目の履修辞退はできません。

14. 公欠

公欠については開講大学の定めによります。

15. 問合せ先

本プロジェクト並びに ICL 科目の履修等に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

大学	部署	メール
東北大学	教育・学生支援部留学生課 ICL プロジェクト事務局	icl-admin@grp.tohoku.ac.jp
東京外国語大学	学務部教務課教務係	kyoumu-kakari@tufs.ac.jp
信州大学	グローバル化推進センター	icl-shinshu@shinshu-u.ac.jp
大阪大学	国際部国際学生交流課留学生交流係	icl-osaka@ml.office.osaka-u.ac.jp
神戸大学	学務部国際交流課留学生支援グループ	stdnt-ryulife@office.kobe-u.ac.jp

2025 年度前期 ICL 開講科目一覧

2025 年度前期に開講予定の ICL 科目一覧となります。開講科目の詳細及びシラバス等は、2 月中旬を目途に [ICL プログラムウェブサイト](#) に掲載しますので確認のうえ申請を行ってください。

【前期（1 学期）開講科目】

曜日・時間 ※1	学際領域	開講大学	開講科目名	講義題目等	教授 言語	単位 数	定員※2
月 14:40-16:10	産学連携・ リーダーシップ	東北大学	キャリア関連学習	日本的経営・人事システムの理解 と企業内キャリアデザイン	英語	2	
月 16:20-17:50	異文化理解	信州大学	グローバルコミュニケーション論 A	グローバルコミュニケーション論 A	日本語	2	
月 16:20-17:50	産学連携・ リーダーシップ	東北大学	グローバル特定課題	EQ（心の知能指数）を活用した リーダーシップ	英語	2	
月 17:00-18:30 *第 2 クォータ 開講科目	日本文化・ 社会	神戸大学	多文化共生のための日本語 コミュニケーション	多文化共生のための日本語 コミュニケーション	日本語	1	最多 20
水 12:40-14:10	日本文化・ 社会	東京外国語大学	日本の文学と文化を知る 1	日本の首都：東京と京都	英語	2	10

※1：各大学の時間割及び学年歴は[こちら](#)よりご確認ください

※2：定員は ICL コンソーシアム加盟大学からの参加可能人数。定員の記載がない科目は、定員を特に定めていない。

【2025年度】ICL科目_読み替え科目リスト

ICL開講科目

	開講科目名	講義題目等	担当教員	学際領域	教授言語	単位数	授業概要
東京外国語大学（前期）	日本の文学と文化を知るⅠ (Aspects of Japanese Literature and Culture Ⅰ)	日本の首都：東京と京都 (Japan's Capitals: Tokyo and Kyoto)	モリス MORRIS Jonathan	日本文化・社会 (Japanese Culture/Society)	英語	2	このコースでは、京都と東京を取り上げ、日本の歴史と文化におけるそれぞれの重要な役割を検討します。まず両都市の創設経緯から始まり、その後、経済、宗教、建築、インフラ、文化の概観を続けて行います。実物資料や地図を使用した教育方法を取り入れていきます。学生は、東京または京都の地域に関する地図研究を行い、観光、出版、芸術などを通じてそれらの文化的影響を探ります。また、地元の工芸品や消費財、京都と東京の過去および現在の食文化も取り上げます。ガイダンスを受けながら、学生は興味のある関連トピックに関する研究エッセイを作成します。 This course examines Kyoto and Tokyo and their significant roles in Japanese history and culture. It starts with their founding circumstances, followed by a survey of their economy, religion, architecture, infrastructure, and culture. Key teaching methods include using realia and maps. Students will produce map studies on areas of Tokyo or Kyoto, exploring their cultural impact through tourism, publishing, arts, etc. The course also covers local crafts, consumer goods, and the past and present food culture of Kyoto and Tokyo. With guidance, students will produce a research essay on a relevant topic that interests them.
信州大学（前期）	グローバルコミュニケーション論 A Global Communication A	グローバルコミュニケーション論 A Global Communication A	仙石 祐	異文化理解 (Multicultural Awareness)	日本語	2	本授業は国内学生と留学生が協働しながら学び合う「国際共修授業」であり、使用言語は日本語である。教員は基礎的な知識や参考資料の提示にとどめ、履修者によるグループワークやディスカッションの場を多く設け、アクティブラーニングの要素を重視する。授業の前半はマレー半島を舞台とし、後半は中東（部分的にヨーロッパ含む）を舞台とする。また単元の最終課題に有益な話題を提供してくれる、現場での実務経験がある外部スピーカーによる講演も予定している。 This course is an "international collaborative learning class" where domestic and international students work together and learn from each other. The language of instruction is Japanese. The instructor will primarily provide foundational knowledge and reference materials, while placing significant emphasis on active learning by incorporating group work and discussions among participants. The first half of the course focuses on the Malay Peninsula, while the second half shifts to the Middle East (with partial inclusion of Europe). Additionally, guest lectures are planned by external speakers with practical field experience, offering valuable insights for the final assignments of each unit.
神戸大学（前期）	多文化共生のための日本語コミュニケーション (Communication in Japanese for Multicultural Society)	多文化共生のための日本語コミュニケーション (Communication in Japanese for Multicultural Society)	黒田 千晴 KURODA Chiharu 齊藤 美穂 SAITO Miho 川上 尚恵 KAWAKAMI Naoe	日本文化・社会 (Japanese Culture/Society)	日本語	1	本授業では、多文化共生社会の概念について知識を深め、その社会の構成員として必要となる基礎知識や能力を涵養することを目指す。留学生を含む地域の定住外国人との交流に興味がある学生を主たる対象とし、日本社会や大学のキャンパスにおける多様性について、ケース・メソッドの手法を用いたディスカッションやグループワークを通して学ぶ。本授業は、オンライン・リアルタイム形式で実施する。 This class aims to deepen students' knowledge of the concept of a multicultural society and to foster the basic knowledge and competencies that are necessary as members of such a society. Students will learn about diversity in Japanese society and on college campuses in Japan through discussion and group work in a case method approach. This class will be conducted in realtime online format.

※神戸大学が開講する「多文化共生のための日本語コミュニケーション (Communication in Japanese for Multicultural Society)」については、学部によっては卒業要件単位もしくは自由聴講科目の単位として認められる場合があります。その可否については、所属学部担当係にお問い合わせください。

相当する東北大学の授業
旧カリ

開講科目名	単位数
日本社会・文化B	2
異文化理解	2

相当する東北大学の授業
新カリ

開講科目名	単位数
文化と社会の探求	2
多文化特定課題	2